

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年12月21日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4677500110
法人名	社会福祉法人 恵仁会
事業所名	グループホーム あいら
所在地	鹿児島県鹿屋市吾平町上名5324番地2 (電話) 0994-58-5539
自己評価作成日	平成30年11月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpucb/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成30年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「黒羽子地区で春夏秋冬を感じながら共に楽しく過ごしましょう。」「美味しい物を美味しく食べて楽しい時には一緒に笑い、悲しい気持ちを分け合えるそんな家族を目指します。」以上が私達グループホームあいらの理念です。高齢者を中心とした地域の拠点として施設内で生活するご利用者様に留まらず地域の安心できる相談窓口の拠点として地域に浸透した施設を目指して日々努力をしています。利用者様の健康管理をまず第一に考え気になる事があればまず家族・医療機関へ連携を図っております。環境面では季節の花を植え旬の食材や地元吾平の地産地消を心掛けて食事が楽しみとなる様に支援しています。近くには観光農園・大隅広域公園・物産館つわぶき等があり気候等に応じて利用させて頂いております。又、吾平町の主催する文化祭や農業まつり、町内会の主催する春祭り等地元の行事にも積極的な参加をして地域に混ざった生活を提供するように努力しております。ご利用様は認知症状を有する方々ですのでまず優しい声掛けを行い挨拶をしっかりする、話をしっかりと聴く、タッチング等のコミュニケーション手法を用い笑顔や楽しい雰囲気作りを行うを第一に症状に応じたスキルを磨きながら利用者様、ご家族様が安心できるホーム作りを心掛けております。又環境整備を行い清潔を常に意識し感染症予防等も行い昨年インフルエンザ罹患患者ゼロを達成しております。看取りケアについても今年度も2名中1名はケアを終了しご家族様にも高い満足度を頂きました。静かでもとでも過ごしやすい環境にあるホームです、地域の方がちょこっと寄ってお茶でも飲んでいただける、そんな開かれたホームを目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当ホームは吾平山陵近く自然豊かな田園地帯に立地し、近隣の住民が気軽に立ち寄り、清掃活動の後には皆で前庭のベンチでお茶を飲んだりしている、地域に開かれたホームである。
- ・自治会に加入し、十五夜や婦人会の踊り・敬老会・文化祭などの地域行事への参加やホームの秋祭りで多数の住民と交流している。地域の演芸ボランティアや中学生の職場体験学習も受け入れており、高齢者クラブから年2回タオルの寄付がある。住民からの野菜の差し入れにはホームから料理をおすそ分けするなど、近所付き合いの交流がある。
- ・数ヶ所の協力医療機関及び在宅療養支援診療所、訪問看護ステーションとの連携・協力体制が整っている。定期的な訪問診療や受診による医療支援が行われており、協力医療機関等の協力を得て、家族の意向に沿った看取り介護にも取り組んでいる。
- ・職員の資格取得や研修受講を支援しスキルアップを図っている。職員の負担軽減の為にリフトの設置や昼食の外部発注を試行したり、社員旅行などの福利厚生事業により就業環境の整備に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事務所とユニットに掲示している。利用者の支援に迷った時に理念と照らし合わせて進める事を職員がみな浸透できるように声を掛けています	理念はパンフレットへの掲載及び事業所内に掲示し、職員等への周知を図っている。ミーティング時にケアを振り返り、理念の確認と実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	奉仕作業はお茶を出して井戸端話をしたりと交流を心掛けました。また秋祭り等を開催し招待しました。地域の文化祭等の行事も参加し挨拶をして地域の方と気さくに会話に努めました。	十五夜等の地域行事に参加したり、ホームの秋祭りには住民を招待している。中学生の職場体験学習やボランティアを受け入れたり、地域の奉仕作業後にお茶飲みの場を設ける等、積極的に地域との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	毎月の認知症ケア専門加算会議等では職員も技法を学び地域運営推進会議等では色々なケースの紹介を行い実践の内容を少しでも伝えていきます		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2か月に一度開催をしています。サービス内容・課題・地域よりの助言等を頂けており日々の処遇の改善・向上に参考にさせて頂いております。</p>	<p>2ヶ月に1回の運営推進会議を開催し、ホームからのヒヤリハットを含めた報告と意見交換を行っており、身体拘束適正化委員会も兼ねている。参加者から感染症等の情報を早めに欲しいとの要望にサービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>地域運営推進会議を始め鹿屋市からはメール等で事務連絡があります。その他介護保険更新等の事務的な連携、相談であったり介護事故等に関する報告等を行っています。鹿屋市の開催する研修等の参加も行っています</p>	<p>運営推進会議時の意見交換や窓口に出向いて報告・相談を行う等、市の担当者とは連携を図っており、市からも毎日メールで連絡等がある。市の研修会に参加して、情報交換等にも努めている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体的拘束廃止委員会と毎月のミーティング、年二回の勉強会の参加にて身体拘束、権利擁護等について学び振り返ります。福祉の現場では身体拘束はあってはならないんだという意識は全職員に浸透しております。</p>	<p>指針が有り、委員会や年2回の研修会で職員の身体拘束に対する理解を深めている。言葉使いについては研修会のテーマにして研鑽している。一人で外に出ていく利用者には職員が付き添って近隣を散歩する等、全職員が「身体拘束をしない」という意識を持って、ケアに取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会研修に参加をしている。虐待は身体的だけではない事不適切なケアは無かったかの振り返りをミーティングで行っております。職員同士お互いに気兼ねなく伝え合う様にしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会研修に参加をしている。権利擁護についても学習している。成年後見制度利用のご利用者様もお一人おられます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時の事前に家族・ご利用者様へ説明を行っています。介護保険法改定時等においては文書交付と家族会等の顔を合わせられる機会を設けて説明同意を頂ける様に工夫しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時・受診時は必ず状態報告を行っています。少しの変化も気になる点もすぐに電話で伝える様にしています。面会時は特に要望等を伺える機会としてケアプラン等へ反映させています	利用者には日常の会話の中で要望等を聞いている。家族には、運営推進会議や年2回の家族会で意見を出してもらったり、電話や面会時に要望等を聞いており、出された意見等は、介護計画や運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年二回職員の面接を行って事業所への要望を聞いている。随時の面接もスタッフを呼び止めて適宜顔を向き合わせて行う様に行っています。	管理者は毎月のミーティングで職員からの意見等を聞いており、提案を物品購入や記録様式の統一等に反映させている。年2回の面接や必要時の声掛け等で個別にも意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員それぞれが自己評価を行い管理者からの職員の努力・実績評価を行っている。上半期と下半期に分けて振り返りそれぞれに助言を行えるようにしております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の内部研修を月一回実施。外部研修の案内も多く適宜職員へ参加をお願いしています。また管理者はキャリア段位アセッサーを受講し今後の評価に活用できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護事業所協議会や鹿屋市の研修会・鹿屋市の認知症セミナー等沢山の会合への参加等が職員間においては法人内にとどまらず同業者間の顔見知りが増えたりとネットワーク構築に効果がみられている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回アセスメントとして重要な機会ととらえている。本人からの想いは言葉から伝えられる方、表情等でした伝えられない方もいるのでそこを理解し家族にも協力を頂き本人の意向に限りなく近づく努力をおこなう。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用に関して内容をしっかりと伝え家族から直接又は電話、面会等で聴き取りを行い思いを受け止める様にしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援がグループホームで適当なのかをケアマネジメント視点から見つめ他サービスやあるいは法令の観点から見つめ必要時は説明や相談窓口紹介をおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の身体面だけではなく内面生活歴、こだわりを把握できるように関係性構築の努力を行っている。役割や生きがい・生活を発見できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便り等で日頃の様子を伝えたり少しの変化も電話でつたえながら家族の存在・協力なしには生活はなりたない事をスタッフ間で共有している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知り合いがホームに来れる機会を見つけたり外出や受診等で知り合いと会える機会を作ったり一時帰宅・外泊の機会を作ったり今までの関係性を断ち切る事がないように意識をしている。	友人等が歓談や暮に来訪し易い雰囲気作りに努めている。職員が、自宅訪問や墓参り等に同行したり、家族との受診・買い物・外食等の外出や年賀状作成・電話の取り次ぎ等を行い、関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の一員としてお互いに思いやる気持ちを持って頂ける様に率先して職員が利用者間に入り関係性の構築のお手伝いをさせて頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院やお亡くなりになられた方のご家族様も時折家で採れた野菜を持って来て頂いたり地域が狭く買い物等でお会いする事もあります。家族の近況を伺ったり他の家族の相談を受けて包括等を紹介する機会もありました		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の気持ちを言葉や表情・日頃の関わりから探り意思確認が出来る様に時にはご家族様の力を借りながら思いの把握に努めています。	家族等の情報を参考にしながら、日常の会話で本人の思いを把握するように努めており、難しい場合は表情等から汲み取っている。得られた情報は、申し送りやミーティングで職員間の共有化を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	随時本人の話や家族の話・入所前の居場所等からの情報等生活歴にはこだわって把握出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活をする中で日々一人一人の生活リズムを把握し大事にしている。無理強いはしないように居心地のよい場所にできるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者がアセスメントを行い本人・家族の意向を踏まえて作成したケアプランを毎月のモニタリングで確認し関わるもの皆の状況を照らし合わせて本人・家族へ伝えてその方らしいケアプランへ近づける努力をしている。	電話や面会時に家族の要望等を把握している。要望等を基にミーティングで出された職員の意見を参考にして、介護計画を作成している。モニタリングを毎月実施し、6ヶ月毎及び状況変化等の必要に応じて介護計画を見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の実践・結果・気づき等を個別記録に残し申し送りを行い情報を共有できる様に努めている。結果計画の見直しの参考ともなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	健康面で不安を持たれている方が多い中、状況に応じ訪問看護や医療機関との連携で医療サービスへ繋いでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアや中学生の福祉体験・婦人会等外部の方の受け入れや個別に行きつけの美容院やスーパーへの買い物、納骨堂への墓参り等その日のQOL向上に向けた支援をおこなった。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本はかかりつけ医を置いて適切な診療体制をとっている。かかりつけ医の指示のもとに訪問看護や他科受診等必要時に必要な医療を俊敏に受けられる様にしています。	本人・家族の希望するかかりつけ医の定期受診で、職員が同行支援している。在宅療養支援診療所の訪問診療を月2回受けている利用者もいる。医療連携体制で週1回の訪問看護師の来訪もあり、かかりつけ医との連携・協力がスムーズに行われ、適切な医療に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の健康チェックを大切にしており変化や気づきは随時看護師（訪問看護・協力医療機関）へ報告し適切な医療支援へ繋ぎ入院を極力減らせるような早目の対応を心掛けました。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は入院先の相談員やケアマネ等と連絡を密にしており退院への支援又はその他の退院先への支援（入院継続や特養・老健等への入所等）を行っている。入院中の医療機関へは介護保険の助言等もおこなっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には重度化や終末の対応について説明をして同意を得ている。事前確認書を頂き希望を伺っている。2名看取り支援にて現在1名支援中である。	契約時に重度化等の場合の対応について説明し、家族の同意を得ている。経過を見ながら家族の意向を確認し、在宅療養支援診療所及び訪問看護ステーションと連携・協力して家族の意向に沿った支援に取り組んでおり、看取り介護の実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について年一回は勉強会があり訓練を行っている。急変等についてはまず何があっても家族の存在を忘れてはならない事を徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年二回総合避難訓練を行ってきています。今年も一回目を行っています。消防立ち会いで行っている。法令で決められている消防設備を完備しており定期的な検査や立ち入り検査も受けています。台風等の災害については水や食料も想定して備蓄をしています。発電機レンタルによる電源確保、スプリンクラータンクも生活用水3m³使用可能</p>	<p>年2回の避難訓練を、住民の参加協力を得て夜間想定で実施し、1回は消防署の立ち会いがある。今後は地震の避難訓練も検討する予定である。非常用の備蓄は水・缶詰・レトルト食品等の食料及びレンタル発電機やカセットコンロ・ヘルメット等も確保している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の気持ちを忘れない事、言葉遣い等。認知症状の特性を理解して個々の歩んできた人生・習慣を把握して。もし自分がされたらどう感じるかを常に考えながら支援をするように心掛けている。	研修を実施し、人格の尊重とプライバシーの確保に努めている。排泄介助時は居室やトイレの戸を閉めて行う等、羞恥心にも配慮した対応を行っており、さん付けでの呼びかけや赤ちゃん言葉は使用しない等、言葉にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	簡単な内容から何についても自分達で進めてしまいがちである日々の日常を出来るだけ自己決定の集合体となる様に支援するように意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れに個々のペースの色を付けて行っている。食事の時間や離床・就寝時間も調整しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	まず髪型・目やに・鼻毛・洋服の乱れ等無い様に、自分だったら・・・を意識する様にしている。定期的な訪問理容もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみとなるように準備等少しでも参加できるように支援している。食は好みを聞いたり季節ものを提供する中で形態には配慮している。年末より食材発注システムを活用してさらに美味しい食事内容を検討しています。	昼食のみ外注であるが、旬のものを取り入れ、個々に応じた食事形態で提供している。利用者と職員と一緒に下ごしらえやテーブル拭き等の準備や食事をしている。行事食や誕生日のケーキを提供し、庭でのお茶・食事、公園での弁当等、食べる事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養・水分補給は認知症状にも影響が多きこと等を専門的に学習をしている。個別な支援では形態配慮でとろみやミキサー等工夫も行う。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔の清潔が健康状態へ直結している事を職員へ徹底している。個々に合わせた口腔ケアを行っています。毎月一回の委員会では歯科衛生士から技術的な指導を頂いております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ排泄等座位での自然排便を皆が意識している。ポータブルトイレも活用しながら失敗しないで排泄ができる感覚を支援している。	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、日中はトイレでの排泄を支援している。オムツ使用の場合も2人介助で対応し、身体状況等によりポータブルトイレも使用している。下着は個々に応じて適切な物を検討している。オムツからリハビリパンツに改善した事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がもたらす認知症への影響も含めて排便コントロールについては水分補給・適度な運動・繊維質等意識するが自己排泄困難な方へは医療とも連携のなか服薬でのコントロールも行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一日置きに個々の体調やタイミングに合わせて支援している。リフトを用いて重度の方も一般の浴槽に浸かって楽しめる様に工夫をしています、このリフトは職員の体格差にも左右されずに安全に浴槽へのトランスファーが行えます。	週3回の入浴を午後実施している。利用者の安全と職員の負担軽減の為にリフトを使用し、利用者は安心して入浴を楽しんでいる。必要に応じて複数介助を行っている。入浴を嫌がる場合はタイミングを見て声掛けし、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調とペースを把握し休憩も必要である。外気浴や体操をしたり水分補給をしたりと夜間の安眠につながる支援としている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員同士で声を掛けあって間違えないように気を付けている。内容についても職員間で学習してその効果等を受診時に伝えられるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お盆拭き・野菜の下拵え・洗濯物たたみ・新聞おり等役割をお願いして頂きそれについて感謝し本人のモチベーションを上げられる様に無知の姿勢で関わる様になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>外気浴・散歩・中庭での体操・花壇の花を鑑賞したりフラッと近くにはコスモス畑等があり散歩やドライブに出かけている。季節もののいちごやぶどうを狩りに行ったりと楽しめるものとしている。個別的には希望者をお墓参りや買い物に連れ出しています。</p>	<p>敷地内には花壇があり、ベンチも多く設置し、庭のベンチで外気浴や日光浴をしている。散歩で近隣に出かけたりしている。年間計画でリフト車を使用して初詣やブドウ狩りに出かけたリ、個別支援で自宅訪問・墓参り・買い物・美容室等へドライブに行っている。家族の協力で外泊や外出・外食・理美容院利用・墓参などの際に出かけている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を完全に管理出来ている方はいませんがお小遣いがあるので外出時には見守って簡単な支払と一緒にするなど社会参加を支援してモチベーションアップにしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>コードレス電話があるのでいつでも話ができる。遠方の方への手紙等個々に支援をしている。個人で日記を付けている方へは助言をして差し上げます。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の中にあるホームで全体的に静かな穏やかな雰囲気である。季節に合わせた花壇づくりや空気清浄機・空間除菌剤・芳香剤等がある。定期的な換気は冬場はインフルエンザ対策ともなっている。椅子を多く用意していたりソファやベンチ等を配置している。クリスマスはイルミネーション、正月は門松等で飾りつけをします。	共用空間は広い庭に面して明るく開放感がある。換気や採光・温度・湿度に配慮し、空気清浄機や除菌剤で感染症対策も行っている。壁面には行事の写真を貼り、季節感を大切に飾りつけや花が活けてある。畳のコーナーもあり、椅子やベンチ、ゆったりしたソファも多く配置し、居心地よく過ごせるような工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	イスやソファ、畳・外部にはベンチ等どこでもくつろげる様にしている。夜が寝るまで淋しい方は畳で横になり添い寝をしてからベッドに入る方もいらっしゃいます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内配置は自由である。自宅で使っている物を持ち込んだ頂いたり写真や好みの物を飾ったりと家族への協力も求めている。家族へは分かり易い説明を心掛けています。	居室はエアコンとベッド・大きな押し入れが備え付けである。加湿器やテレビ・椅子・仏壇・位牌・遺影・家族の写真など、使い慣れた物や家族の思いが伝わるものが持ち込まれ、安心して過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や居室入り口が分かる工夫（表札や写真）プライバシーに配慮しながら実施している。車椅子の方が増えているがバリアフリーで自走出来る方は自走できる環境である。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない